

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察特殊報について
平成20年度病害虫発生予察特殊報第3号を公表したので送付します。

平成20年度病害虫発生予察特殊報第3号

1 害虫名 : チャノキイロアザミウマ

2 学 名 : *Scirtothrips dorsalis* Hood

3 対象作物名 : ピーマン

4 発生地域 : 沖縄県糸満市、八重瀬町

5 発生確認の経緯

- (1) 平成19年11月、沖縄県糸満市西崎の施設ピーマン(1施設)において、芯葉部が萎縮し、芯止まりを引き起こす症状が確認された。その後、同施設では平成20年夏頃から同様の被害が認められた。
- (2) また、平成20年5月に、糸満市真壁の施設ピーマン(1施設)で、チャノキイロアザミウマと思われるアザミウマが確認された。その後、同年11月～平成21年1月にかけても発生し、果実への被害も確認された。
- (3) この状況を受け、平成21年1月下旬に本島南部八重瀬町具志頭において、沖縄県農業協同組合、八重瀬町、南部農業改良普及センター、病害虫防除技術センターが合同で調査を行った結果、6施設中1施設で芯葉部の萎縮、果実にかすり状の被害痕のある株が確認され、被害部にはアザミウマの寄生が認められた。
- (4) 糸満市西崎・真壁及び八重瀬町で採取されたアザミウマを那覇植物防疫事務所に同定依頼したところ、いずれもチャノキイロアザミウマであることが確認された。本県において、本種によるピーマンへの被害が確認されたのは初めてである。

6 形態

成虫の体長は雌約0.9mm、雄約0.8mmで、体色は雌雄ともに黄色である。前翅は灰色をおび、閉じると中心部が縦に黒く筋状に見える(写真1)。ミナミキイロアザミウマと比較すると、体幅のわりに体長が短く、小型である。幼虫は孵化直後は黄白色で、成長とともに黄色みが強まる(写真2)。また、ミナミキイロアザミウマと比較し動きが俊敏である。

7 被害状況

寄生部位は芯葉部、葉、果実、果梗部である。被害は芯葉部に顕著に現れる。被害葉は縮れ、ひどい場合は葉縁部が葉表側に巻き込みながら萎縮し、食害部はかすり状となる(写真3)。生長点部分が食害されると芯止まりがおこり、チャノホコリダニによる被害と似る(写真4)。果実が食害されると、ミナミキイロアザミウマによる被害と同様、灰白色のコルク化した食害痕が残り、果実は生長とともに変形する(写真5・6)。

8 防除対策

- (1) 開口部への防虫ネット展張や黄色粘着テープの設置などの物理的防除を行い、施設への侵入防止措置を行う。
- (2) 薬剤による防除を実施する場合、ピーマンで本種を対象とした適用の登録は無いが、アザミウマ類として適用のある登録農薬(アセタミプリド水溶剤、スピノサド水和剤及びトルフェンピラド乳剤)による防除を行う。



写真1. 成虫



写真2. 幼虫



写真3. 被害葉



写真4. 生長点での被害



写真5. 被害果(奇形果)

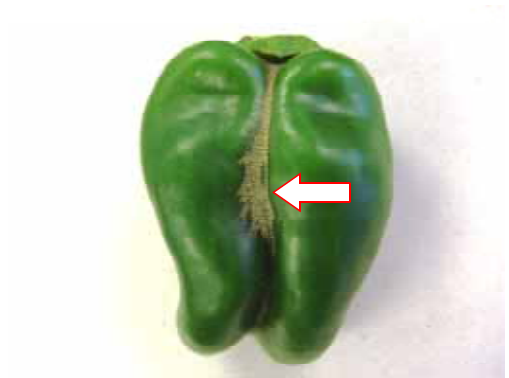


写真6. 被害果(コルク化した食害痕)

9 参考文献

平成20年度病害虫発生予察特殊報第1号 高知県病害虫防除所
農作物のアザミウマ 梅谷ら編 全国農村教育協会 (1988)
日本農業害虫大事典 梅谷ら編 全国農村教育協会

詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい
:TEL: 098-886-3880、098-886-0227
:アドレス: <http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/cateview.jsp?cateid=119>